

## 第2回境港市環境審議会 発言要旨(計画修正用)

ページ	提案者	意見	修正内容
5	石原委員	計画期間について、「社会情勢の変化などに対応するため、令和4年度から始め、5年間とします。」とした方が分かりやすい。	計画期間の文章を修正。
8	小西委員	重点目標と基本目標について、前段に市のこういう状況でこの目標を定めたという説明を入れた方が分かりやすい。	ここでは、簡単な説明に留め、第4章施策の展開に基本目標毎に説明文書を追加。
8	伊達委員	基本目標を4つ、その中でこれが重点取り組みというような構成のほうが分かりやすい。	全て基本目標とし、「脱炭素社会の実現」を重点取組とした。
11	伊達委員	CO2の表記をCO <sub>2</sub> に。	表記を修正。
11	伊達委員	トンを表すtが分かりにくい。	カタカナ「トン」に修正。
11	木村委員	市域から排出される二酸化炭素排出量の指標について、県では、60%に引き上げる話がある。その場合、目標値のH25年度比33.1%では、足りないのではないかと。	県脱炭素推進課に確認したところ、60%は、現在案の段階で、確定は、令和4年度とのこと。よって、今回は、修正なしとし、県の目標値確定後に改めて修正を行う。
11	管原委員	現況値「+CO <sub>2</sub> 」の表記が高校生などには分かりにくい。	カタカナ「トン」に修正。
11	管原委員	tの表記について、16ページでは、グラムというカタカナ表記になっているため、単位の表示を揃えた方がよい。	カタカナ「トン」に修正。
14	山本委員	エネルギーの地産地消について、雇用の促進も含めて地域内でお金の地産地消もしてはどうか。	文章を修正。
19	管原委員	食品ロスについて、農林水産省で「てまえどり」という取り組みを行っている。農林水産省へのPRという意味からも、そういう文言も盛り込んではどうか。	文章を修正。参考に「てまえどり」を追加。
19	赤井委員	学校における食育の推進について、小学校との連携とあるが、保育園や中学校も含めることが出来ないか。	学校等とし、中学校、保育園を追加。
20	石原委員	指標の根拠が書かれていない。例えば一斉清掃の500人は少ないと思う。	目標値の根拠を追加。一斉清掃の目標値を修正(20%増)。
20	伊達委員	猫不妊去勢手術費補助件数について、目標値として増やすことに違和感がある。根本は猫をすてさせないことの啓蒙が目標だと思う。	猫不妊去勢手術費補助件数を指標から削除。
21	管原委員	弓ヶ浜の海岸漂着物の清掃について、環境省の補助を取りに行くことを想定して海洋プラスチック問題に取り組むという文言を入れてみてはどうか。	P22「海洋ごみ削減の啓発」の箇所に海洋ごみ対策を追加。
23	管原委員	騒音・振動・悪臭の防止について、法律に従いというのがここだけ出てくる。ほかのところも法律に従うのは当然であり、ここだけの話ではないので、表現を工夫すべき。	「法律に従い」を削除。その他、文章を追加。
23	管原委員	空き地・空き家の不適切な管理について、不適切になる前に未然に防ぐという取り組みも必要なことから追記してほしい。	文章を修正。
24	石原委員	ポイ捨てについて、観光客や釣り客への啓発を入れてはどうか。	文章を追加。
25	伊達委員	イベント開催について、単市での開催に固執することなく、広く捉え、県や米子市との共催などを含めた方がよい。	現況値、目標値ともに民間イベント、共催イベントを含んだ数値に修正。
25	管原委員	総合的な環境イベントの開催について、指標の現況値が横棒になっており、これまで何もしていなかったという話になる。NPOや他の市町村とやったことも現況値に入れてはどうか。	同上
25	黒田委員	キャンドルナイトも環境イベントに加えてもいいのではないかと。	同上

ページ	提案者	意見	修正内容
25	伊達委員	県とか米子市とかの話があると、目標値の設定そのものが違ってくるのではないかと見直しを含め検討を。	同上
26	小西委員	環境学習・教育の充実について、境港の場合、基幹産業の水産業への影響が大きい、だからみんなで考えましょうという流れを書いてほしい。	文章を修正。
26	山本委員	環境学習において、ゲストスピーカーとの繋がりを作ったり、人材の発掘や育成も大事なことだと思う。	P28に「環境に関する人材の活用及び育成」を追加。
27	石原委員	環境に関する情報提供の充実について、海とくらしの史料館を活用し、海洋環境についての展示などを行ってはどうか。	文章を修正及び追加。
29	伊達委員 山本委員	CO2削減の見える化について、主要なところだけ付け加えることでもいいのではないかと。全部に書くことは難しい。ピックアップして書くことはできるのでは。	「削減の目安」を主要な箇所に追加。
30	赤井委員	再エネ電気の切り替えについて市民にはどうすればいいのかわかりにくい具体的なアクションがわかりにくい。	文章を修正。
31	山本委員	省エネ家電の導入、ZEH、リフォーム、分譲賃貸の省エネ物件の選択など、その後、10年、20年の省エネ及びCO2削減を決める大事な選択であることを呼び掛けることが出来ると思う。	今回、文言の追加等は行わず。今後の周知啓発活動に活用する。
32	山本委員	鳥取県の「とっとり健康省エネ住宅NE-ST」ともリンクさせてはどうか。	NE-STを追加。
—	伊達委員	農業施策に関することが触れられていない。(荒廃農地の整備等)	P21「豊かな自然環境の保全」に「農地の適切な利用」を追加。 P14「営農型太陽光発電」を追加。
—	赤井委員	市民に求められる行動のメリットが読みにくい。分かりやすくしてほしい。	P30以降、一部修正。